

事務事業評価

平成 24 年度

担当グループ 物産流通グループ

基本事項	事務事業名	島原市特産品PR催事事業				整理番号	1302	
	根拠法令等					実施を義務付ける規定	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
	関連する市勢振興計画の基本計画	章	第6章 地域の個性と魅力を磨いて交流を促進する	予算科目	7 款 1 項 4 目	<input type="radio"/> 継続 <input checked="" type="radio"/> 新規		
		節	第1節 地域ブランドの確立	事業区分	助成・育成			
事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	市内事業所が独自での各種催事への出展はなされていたが、売り上げ増加や認知度の向上には限界がみられている。これからの地域間競争の激化、客ニーズの多様化を背景に、より顧客や流通関係企業に対し魅力的な訴求を図る必要がある。				計画期間	始期 平成 21 年から 終期 平成 年まで	
	事業の対象及び目的 (誰に、何を、どのような状態にしたいのか)	下記により本市特産品の流通促進を図ることを目的とする ・本市産品の知名度向上 ・販路の拡大(定番化) ・島原への関心の向上						
	目的達成のための手段・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種催事の開催・支援</li> <li>・催事開催時のパブリシティ獲得(島原市や事業所の露出など)</li> <li>・催事出展に際しての事業所との調整</li> <li>・催事情報の収集</li> </ul>						
	成果指標 (意図する状態の達成度を図るものさし)	名称等(内容)		単位	22年度	23年度	24年度	
		①商品売上金額 催事においての商品売上金額	目標	千円	20,000	25,000	50,000	
			実績	千円	19,100	41,296		
達成率			%	95.5	165.2	0.0		
②商品商談成立件数 商談会において百貨店等との商品販売成立件数	目標	件			10			
	実績	件						
	達成率	%			0.0			
活動指標 (意図する状態達成のために実施する活動等)	①催事開催・支援回数 市が開催、または支援する催事の開催回数	目標	回	-	-	30		
		実績	回	24	27			
	①商談会開催回数 市が開催、または支援する商談会の開催回数	目標	回	-	-	3		
		実績	回		3			
事業費等の推移	年度		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	区分		実績値	実績値	実績値	実績値	予算	計画
	①直接事業費(千円)			5,852	11,017	16,227	12,209	
	財源内訳	国県支出金						
		地方債						
		その他						
		一般財源	0	5,852	11,017	16,227	12,209	0
	②従事職員給与費 b1×b2		8,297	8,308	8,315	8,394	8,441	0
従事職員数(人) b1		1.16	1.16	1.16	1.16	1.16	1.16	
職員平均人件費 b2		7,153	7,162	7,168	7,236	7,277		
事業費合計 ① + ②		8,297	14,160	19,332	24,621	20,650	0	

【1次評価】

◎事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
目的妥当性	①住民ニーズの変化等により事業の必要性や役割は変わっていないか	A=変わっていない B=一部変わった C=変わった 地域間競争の激化、客ニーズの多様化を背景に、市の関与の必要性はむしろ強まる。	判定 A
	②事業を民間(NPO、市民、ボランティア等)に任せることはできないか	A=可能でない B=一部は可能 C=可能である 物産・観光関係経済団体に任せることも可能である。ただし現時点では、適切な団体が見当たらない。	B
	③対象等は事業目的に見合っているか、拡大や絞込む必要はないか、見直しによる費用対効果の向上が図られないか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 対象等は適切である。	A
有効性	④事業の実施により初期の目的や目標がどの程度達成されているか	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 商品の定番化やメディア露出に繋がっている。	B
	⑤成果の状況を踏まえ、手段等を工夫したり事業内容を見直すことで、成果をさらに向上させる余地はありませんか	A=十分成果が得られている B=検討の余地あり C=見直しが必要 より魅力的訴求を図るパッケージされた仕掛けが必要。	B
効率性	⑥活動量や成果を下げずにコストを削減できないか、投入された資源量に見合う結果が得られているか、改善の余地はありませんか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 都市圏でのPRに重点を置き、効果的に実施する。	B
	⑦事業の効率性を上げるため、他の事業との統合や事務の省力化など見直す余地はありませんか	A=見直す余地はない B=統合等、検討の余地あり C=見直しが必要 他に類似事業はない。	A
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はありませんか。	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 事業所、関係団体との連携を図っている。	A
公平性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されていますか。全体コストから見て受益者の負担割合は適切か、使用料等の見直しの余地はありませんか。	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 出展に関して、受益者負担を求めることはできない。	A
⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか		A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要	A

判定評点平均  
A=3、B=2、C=1、「-」=0として換算 **2.60**

◎総合評価

<p>○ A 継続実施(特段の見直しは行わない)</p> <p>○ B 改善・見直しを行う</p> <p>○ B1 事業規模の拡充</p> <p>○ B2 事業規模の縮小</p> <p>● B3 事業内容の改善・見直し</p> <p>○ B4 その他の見直し</p> <p>○ C 休止(隔年実施などへの変更)</p> <p>○ D 廃止(終期の設定等を含む)</p>	判断理由	<p>事業所との連携推進、関係団体との協議を重ね、魅力的な特産品のPR、観光誘客の拡大につなげていく。</p>
<p>今後の課題及び改善策、見直しの状況</p>		<p>(実施上の課題等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物産振興協会との連携推進。</li> <li>・物産、観光において集客力がある魅力的な商品等の開発。</li> </ul>
<p>総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せて記載ください。本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し(改革・改善、終期の設定など)を行っている場合は、その内容についても記載ください。</p>		

【2次評価】

総合判定	B3見直しのうえで実施 ⇒ 事業内容の改善
備考	関係団体との連携を推進し、更なる本市特産品の流通促進を図ること。

【3次評価】

総合判定	
備考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況		
① <input type="checkbox"/> 事業費縮減(事業の見直し)	③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減 (千円)
② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減	④ <input type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)	